

伊勢物語

実隆筆天福本

愛媛大学
古典叢刊

1

愛媛大学
古典叢刊 1

伊勢物語

実隆筆
天福本

刊行のことは

愛媛大学国語国文学研究室においては、創立以来地方の文学資料についても調査研究を進めてきた。

二十周年を経た今日、県下に埋もれた貴重な文献資料がなお数多くあるので、これを複製刊行し、広く学界の要望に応えることとする。

諸賢のご協力をお願いしたい。

伊勢物語 実隆筆天福本

昭和四十五年四月一日発行

解説 伊井春樹

発行者 愛媛大学 古典叢刊刊行会

印刷所 株式会社 関洋紙店印刷所

松山市湊町七丁目七番地一

790 松山市文京町三

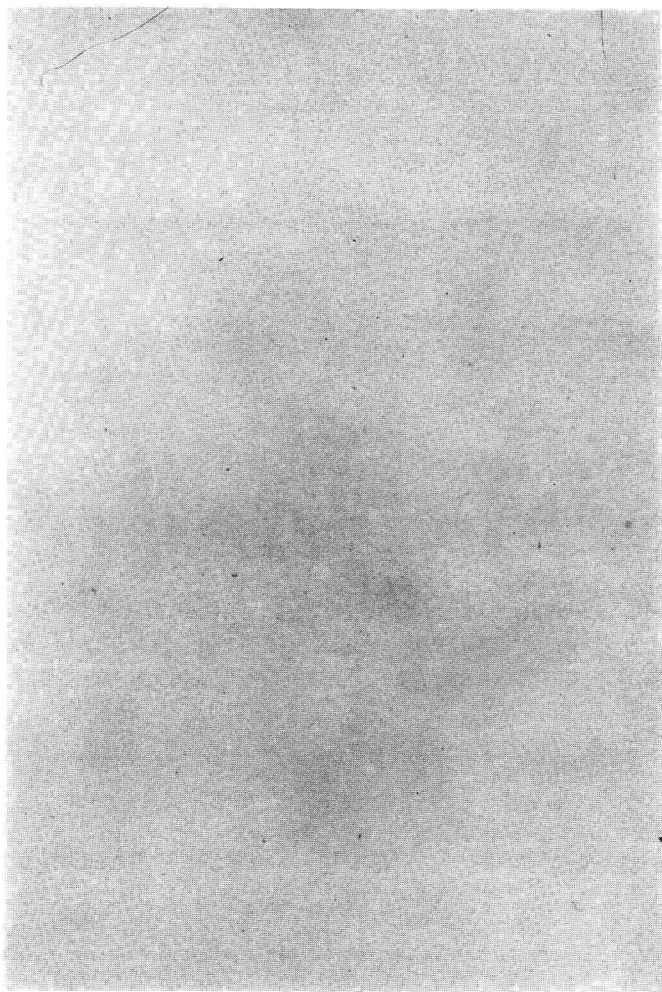
愛媛大学法文学部国語国文学研究室内

発行所 愛媛大学 古典叢刊刊行会

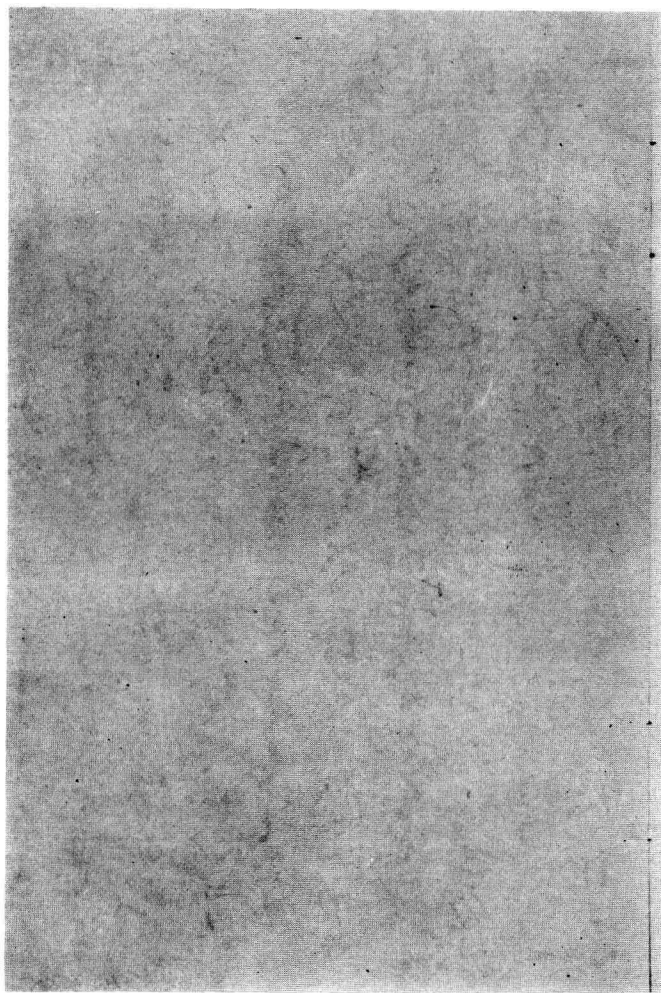
振替・徳島一五三九三



表紙



見
返



一
才

3
うの哀れ女あはれなるの女をへしり
たれわたりたる人がらわにふらんぬき
わたりむわの女あはれは目くら
しなかり下めはこしらものなりして
きていつ思ひん時やいづついらあ
うなまらふやわたり

春
たふしむ世あはれせてもあはれ
春の物してありめくらした
じうなこあはれむきさうら女
あはれむしむきさうら女あはれ

思ひありしころのやうなねえさん
 ひとりでいそいそと暮らして

二條のやまきりもいふくまはるはる
 つらいつらいつておちてあつた

時のこゝろ

じつとんりの五葉はたけのこ
 ろあつたころのそいふまじく有る
 ちをばはるあつてさうあつた
 ひとりでいそいそと暮らして
 ひとりでいそいそと暮らして

さげとくのかいよがふへも所もあはれ
多れえれうーと思つまんありそふ又
のうのじ月はじめの花さわはこふ
をこむてふてふらてえのそふれと
こふはうへくもあすらふそふてあは
らあふこふは月のがふあふてあ
せりそこふも思ひてふら

春

月やあはれ春や昔のころをふ
わがふはうへくもあふて
とふてあふはうへくもあふて

わらわら

じつたに有るにせうの五葉に
まゐるのむていふくろくろなる所なれ
たかゝらえといてわはへのもくあそ
ろに、ちのくつれわがもろわむと
けくもあねとそいかになりまねあは
きてはきてうろが、い地はわ、よくとす
へて下りせえれ、いまもえあてか
つをりさてよめら

在令 じつたにわらわ、いちのせきわら

しつゝいふとねあん

さよめわふれいといふうをやふわあ
しつゝいふとねあ

二条のふれいといふのいてるうをを
ふれいといふわふれいといふのうを
せつゝいふとねあ

じつゝいふとねあわふれいといふ
ふれいといふをてふれいといふ
わふれいといふをてふれいといふ
わふれいといふをてふれいといふ
わふれいといふをてふれいといふ

くはなまゝいりてゆまのれいふと
まんだいよぞえふ家ゆきまゝにけり
あまのれいもわある所もふて神さ
いづていふあまのいづあわれ
あはれあふくは女まゝにけり
てたゆみやあふをたひてとらふ
えやあまのあまと思つぬわらふ
もやいづちふいてわあふといひ
れし神あふはふえまゝにけり
あまのあまゆきもあふてけり

あゝまゐもしてふけもいさ

あゝまゐもいさと人のいさ

つゆとてつへてもえかまゐるを

高子元慶元年正月廿六

ふれい二条のきさきさきの女にわ

えもつりてくやもてぬるわ

まがらうもめてくたうきしぬあ

くそわいて侍てくわをもいせとけり

昭宣公

はのわたりくたふたの文詞言て

下らうと内へりわくふまゐるを

くあるをまつてとめてわかつ

してゐるをわが心といふはふりなり
 といふてゐるものなりわが心なり
 時や

じしなゝあわさるゝ哀のあはれいであ
 氏も侍もゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 りみつゝをゆゝ浪れゝゝゝゝゝゝゝゝ
 見そ

後撰

侍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うゝ山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とあじやゝゝゝゝ

じつに有る京や其方より見え
あはれの方の夢をてすみ所とじて
とてする人ぞわあなりて夢をわ
たかりくあはれなりきまもあまの
と見て

邦命

志あのみつあはれのそとより
なみくら人の見やいよりめ

じつにわああわわわのたよりをえり
なみ物は思ひで哀しいわあはれ
方はまじいといふとめなして夢をわ